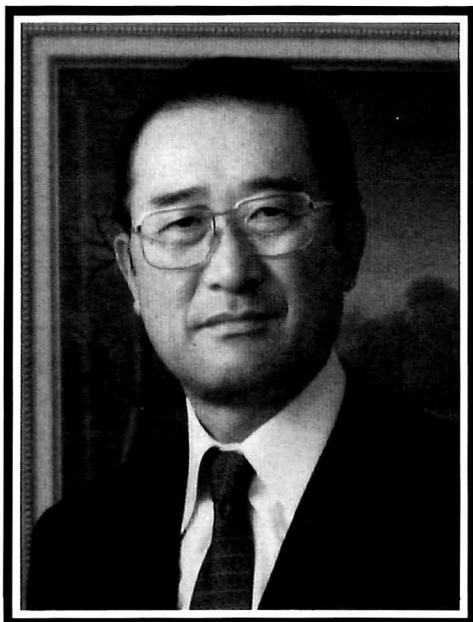




原 武郎先生 ご略歴

生 年 月 日 昭和4年5月20日生まれ
 本 籍 福岡県三潞郡城島町内野272-1
 現 住 所 福岡市博多区吉塚本町8-8
 昭和24年3月 佐賀高等学校卒業(旧制)
 昭和30年3月 九州大学医学部卒業
 昭和31年4月 九州大学大学院博士課程医学研究
 科入学
 昭和35年4月 九州労災病院整形外科勤務
 昭和35年12月 九州労災病院第二理学診療科部長
 昭和36年1月 ニューヨーク大学大学院専門医課
 程リハビリテーション医学研究科
 入学
 昭和38年6月 カナダ, トロント労災病院研修
 昭和38年7月 九州労災病院復職
 昭和39年4月 九州労災病院リハビリテーション
 診療科部長, 九州リハビリテー
 ション大学学校校長補佐, 九州大学
 医学部講師
 昭和47年3月 九州労災病院退職
 昭和47年4月 誠十字医院副院長
 昭和52年4月 福岡大学医学部講師
 昭和54年4月 原整形外科医院開業
 平成元年8月1日ご逝去(60歳)

所属学会, 委員会等

日本リハビリテーション医学会評議員および
 各委員会委員
 厚生省理学療法士作業療法士審議会委員
 日本整形外科学会身体障害委員会委員
 日本災害医学会評議員
 九州大学医学部整形外科講師
 福岡大学医学部整形外科講師

表 彰

平成元年5月 太平洋美術会特別奨励賞

原武郎氏は昭和4年の誕生で、佐賀高校を
 経て九州大学に入学、教養課程を修了して医
 学部に進み、昭和30年に卒業し、インターン
 を修了して整形外科に入った。日本手の外科
 学会が昭和32年に設立せられたが、私の教室
 ではその数年前から手の機能の研究を開始し
 ていたので、原君にも手指の運動機能の研究
 をしてもらった。彼は熱心に研究を開始して
 指の伸展機構に関する論文を発表、医学博士
 の学位を授与せられた。そして、手の機能の
 研究により手の機能に障害のある人たちに接
 触することが多くなり、次第にリハビリテー
 ションの研究に踏み込んできた。

当時、九州労災病院では内藤三郎院長がリ
 ハビリテーション部の整備に情熱をもって努
 力せられていた。例えば、作業療法の機械は
 市販されていなかったため、職員を激励して
 各種の機械を作製せられていたが、原君が昭
 和35年に九州労災病院のリハビリテーショ
 ン部に入ると同時に、その活動を開始しても
 らった。期待に背かず努力せられ、昭和36年
 に世界リハビリテーション基金が留学生を募
 集していた際、その選抜試験に見事に合格し
 て、ニューヨーク大学のリハビリテーション
 研究所に勤務、3年間、熱心に修練せられて
 ラスク教授からも信頼せられた。そして、帰
 国後、九州労災病院のリハビリテーション部
 を更に整備され、院内では独立した分科とし
 て育成された。

リハビリテーション医学の先達 原 武郎先生を偲びて

九州大学名誉教授 天 児 民 和

昭和 38 年, 国際作業療法連盟のニルソン女史が, 更に昭和 39 年には WHO のリハビリテーション担当のペエンニングトン博士も来訪せられたが, 原部長の案内で施設を視察されて満足の意を示され, その折に日本でも専門のセラピストの養成を急ぐべきと要請せられた。当時, 我が国には PT, OT の学校は清瀬にただ 1 校しかなかったので, 内藤院長, 原部長の熱意により労働福祉事業団が九州労災病院に PT, OT を養成するリハビリテーション大学校を 1 億数千万円を投じて昭和 41 年 4 月に開校した。原武郎博士は新しくできた学校での教育と病院の患者の訓練を受け持ち多忙な生活が始まったが, 休みなく活動された。

話は逆行するが, 内藤院長が労働省, 大蔵省にリハビリテーションの必要性を説明するのに便利な著書がないため困っているのを, 急いで教科書を書いてくれるよう私に依頼せられた。私は, 国立別府病院でリハビリテーションをはじめ東京オリンピックの後で車椅子を使用している身体障害者のスポーツ大会であるパラリンピックを開催された中村裕博士と共著で「リハビリテーション」と題した著書を出版した。その時, 原部長の協力を得て九州労災病院の施設を利用して写真を撮影したが, 病床上の寝返り, 座位, 座位の移動などは原部長自身がモデルとなって写真を撮影し, それを提供していただいた。この著書

は天児, 中村の共著であるが, 原武郎博士の写真が多くあるので, その著書を開くたびに原博士の厚意を思い出す。

また, 原博士の著書もある。原博士は多くの四肢の機能障害を取り扱っていたが, その中には整形外科で治療し得るものもあるとはいえ, 治療困難な場合は自助具が必要であるため, その方面の研究を九州芸術工科大学の古賀唯夫講師(現在教授)と提携して始められ, 各種の自助具を考案せられた。これを纏めて原, 古賀の共著で「図説自助具」と題して出版せられた。この種の書物としては日本最初の著書ではないかと思う。共著者の古賀教授はその後我々の心強い協力者で, リハビリテーション施設の設計にはよい助言をされていた。

原武郎博士は, このように日本のリハビリテーションの進歩に貢献せられたが, 昭和 47 年に突然退職を希望せられ, 福岡市内で友人とともに開業せられた。勿論, リハビリテーションを広く市民の中に浸透させたいという希望にもよると思うが, 九州労災病院の設備を拡大して, 義肢, 補装具の研究をしたいと考えていたにもかかわらず, 予算の獲得が容易でなく, それを実現できなかったことも退職の原因ではなかったかと思われる。当時院長であった私自身の責任を考え, 8 月 1 日, ご霊前にお詫びいたしました。